その他の議案

◆様似町選挙管理委員及び補充員の選挙について

議長が指名推選を行い、選挙管理員、補充員合わせて８名の方が当選されました。

【選挙管理委員　４名】

加藤みゆき氏、石井末子氏、斉藤勝氏、大久保唯行氏。

【補充員　４名】

島田一省氏、小川聖子氏、石羽澤幸枝氏、早坂拓三氏。

◆様似町過疎地域自立促進市町村計画の変更について

◆林道生産基盤整備道浜平宇幹線開設工事請負契約の変更について

以上、２件について原案の通り可決されました。

◆町議会閉会中における委員会の所管事務調査等の調査について

以上、１件について申し出の通り承認されました。

令和２年12月定例会
賛否の分かれた議案の公表

		結果	鈴木隆	佐々木敏	根城悌司	水野洋一	髙村洋子	八木田和浩	酒井健二	坂本好則	小野哲弘	工藤仁
議第48号	様似町議会議員及び様似町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について	可	●	○	○	○	○	○	○	○	○	—
議第51号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可	●	○	○	○	○	○	○	○	○	—

可…可決　否…否決　○…賛成　●…反対
※議長、委員会では委員長は採決には加わりません。



様似町第９次総合計画案、示される

令和２年12月18日に行われた全員協議会にて、来年度から始まる様似町第９次総合計画案が示されました。

第９次総合計画案　創生のテーマ

夢を絆を
笑顔でつなぐ
まちづくり

第９次総合計画案の創生のテーマについては、「ふれあいによりつながり始めた心の融合を『絆』に変え、町民が抱く理想のまちづくりという『夢』を、みんなでいきいきと『笑顔でつなぐ』輝いた町民の将来像を示している」との説明がされました。

また、基本計画においては、平成27年９月に国連にて、17のゴールと169のターゲットからなる、持続可能な開発目標『ＳＤＧｓ（エスディージーズ）』が掲げられ、様似町においても、この17の目標を示していくとのこと。

人口減少下でも、将来に渡って安心して暮らし続けることのできる地域づくりを進めること、豊かな自然環境や、安心安全な食、独自の歴史・文化などの持続可能な地域づくりに向け、ＳＤＧｓの理念と合致する施策を推進していくとの説明がされました。



一般質問

12月定例会では、議員5名・8件の一般質問を行いました。



水野洋一議員

質問①
各地域の生活館・集会場の管理運営等について

問 各施設の建設年度、主な改修・修繕等の有無並びにその費用について。

答 資料（P6・P7に掲載）を基に説明された。

問 各施設の直近5年間の改修・修繕費総額は。

答 直近5年間の改修・修繕費の総額は約1，459万円。

問 現人口や今後の人口の推移から、町内施設の適正数をどう考えているか。また、その整理のプロセスやタイムスケジュールについて。

答 近年の利用状況から利用数の減少は著しく、年間利用件数30件未満の施設は、12施設。今後の施設の適正数は、現段階で把握していないが、集約、統廃合に向けた取り組みを検討している。

問 生活館・集会場は町内全部で4箇所として、他全部を統合整理してはどうか。ただし、各総会や会議に関しては町で車を出すという考えはどうか。

答 同じような思いで内部協議をしている。今の規模を維持していくことは難しいが、施設がなくなる地域では反発等があり、地域と協議しながら進めたい。

質問②
町道の管理運営等ついて

問 町道・幌満、鵜の鳥岩線の状況について。

答 町道幌満の鵜の鳥岩線は、平成10年1月幌満トンネル開通に伴い旧国道を町道として移管。平成11年と平成15年に3箇所に法面岩盤崩落があり、平成15年4月から立ち入りを完全禁止。

問 町道・様似ダム線の状況について。

答 町道様似ダム線は、平成25年7月に様似ダム管理事務所付近から約1・1km地点の法面コンクリート吹き付け工の一部が崩落。法面コンクリートに亀裂が入り、大規模な法面崩落の危険性があるため、平成25年7月以降約1kmの区間を通行止。

問 町道・タキナイ線の状況について。

答 町道タキナイ線の状況は、夏場の道路敷地の草刈り等について、沿線周辺の家畜等に注意を払い適切な維持管理を実施。

問 鵜の鳥岩線は崩落してから時間が経過しているが、最終的にどうするのか。

答 町道廃止の方向を視野に検討している。

問 11月早朝タキナイ線にて、十数頭の牛の群れにより一時通行できなかったが、町はこのような状況を把握し、口頭での注意ではなく、書面で指導するべきではないか。

答 所有者と連絡をとり、厳しく指導し道路の安全面の管理に努める。

質問③
第8次様似町総合計画 消防体制の充実について

問 平成30年3月議会での一般質問の後の状況について。

答 庁舎建設について、平成25年9月議会全員協議会で、建設の関係を協議。平成30年3月議会ではJR日高線跡地の活用も検討していると答弁。駅周辺のJR跡地については、庁舎建設の用地は確保できない。防災拠点として、西町第2団地跡地を候補地の一つとして内部協議をすすめている。

問 現消防庁舎は建設から何年経過したか。また、消防庁舎建設は総合計画の第何次から予定されていたのか。

答 現庁舎は建設から55年を経過し、第6次総合計画の最終年、平成11年、12年に計画された。

問 消防庁舎と防災センターの違い、さらに建設のための基金積み立てについて。

答 防災センターは、一般的に災害や火災などに関する住民への普及啓発機能を有した庁舎を指すことが多い。庁舎については、計画が定まっていないので、基金造成について具体的な検討はしていない。



▲ 日高東部消防組合様似支署